

14 番（小川義昭議員）

おはようございます。

議席番号 14 番、市政会、小川義昭です。

通告に従いまして、ただいまより一般質問を行います。

令和 3 年 8 月会議における一般質問は、私がここ最近の会議において質問いたしました、1 点目は市民協働で創るまちづくりについて、2 点目は白山市公共施設等総合管理計画について、3 点目は生活道路補修などのインフラ整備について、以上の 3 項目について、その後どのように検討され、現時点でどのような扱いとなっているのか、それぞれの進捗状況などに関してお尋ねしてまいります。

近年、記録的な短時間の大雨、線状降水帯による未曾有の豪雨が土砂災害や浸水被害をもたらし、全国各地に甚大な被害が出ています。今年の 7 月に起きた熱海市伊豆山地区での大規模な土石流災害や川の氾濫による家屋の浸水被害といった災害は、本市においても決して無縁ではありません。

こうした被災地の惨状はマスコミによって逐一報道されており、水道、ガス、下水道などのインフラ復旧が懸命に行われる中、高齢者のお宅に食料を運ぶ住民やボランティアの様子なども報じられています。そうしたテレビ画面などに接するたび、地域住民が安否確認や励ましの声を出し合い、互いに支え合う姿に触れ、改めて住民相互のつながりの大切さと、市民と行政が役割を分担する地域協働社会の必要性を感じているところでもあります。

そこで、誰もが安心して暮らし続けられる健康な地域を目指す「市民協働で創るまちづくり」について再度お伺いいたします。

先般の 6 月会議においても、私は市民協働のまちづくりと公民館の在り方について質問し、市議会としても市民協働で創るまちづくりを推進するために、まちづくりに関する特別委員会を設置し、意見交換や提言を行っているところでございます。

市内では市民協働による地域の在り方が指針として策定され、取組を始めた地域もあると聞き及んでいます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が拡大し、まん延防止等重点措置期間が延長される中、モデル地区の活動、地域への説明会の開催もままならない状況が続いています。このためできることは限られてはいますが、足を止めることなく少しずつでも取り組んでいく必要があると考えます。

そこで、3 点質問します。

まず、1 点目です。

28 ある公民館地区ではいまだに地域コミュニティ組織は必要なのかという意見が聞かれます。市内の 28 地区全てで地域コミュニティ組織を設立する件に関して、地域の状況が異なる中、推進役、旗振り役となる市当局は、設立を推進することについてどのような見解をお持ちなのか改めてお伺いします。

次に、前回の会議において本格実施の目標時期を尋ねた際、市側からは令和5年度以降と答弁をいただきましたが、私は明確に実施時期を示すことによってモデル地区をはじめ地域の皆さんの意識が高まり、より積極的な取組も生まれると確信しています。市の時期的方針を具体的にお示してください。

続いて3点目ですが、市民協働で創るまちづくりを進めるには地域住民の参画・連携が重要です。ところが、実際には住民の多くがまだまだ知らないのが現状ではないでしょうか。市民協働で創るまちづくりに対して、市民の関心を高めていく方策についてお伺いいたします。